

保護者の皆様

令和8年10月9日

川崎市立浅田小学校
校長 堀江 広志

令和8年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月15日（水）～21日（火）に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月23日（木）および28日（火）に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えします。

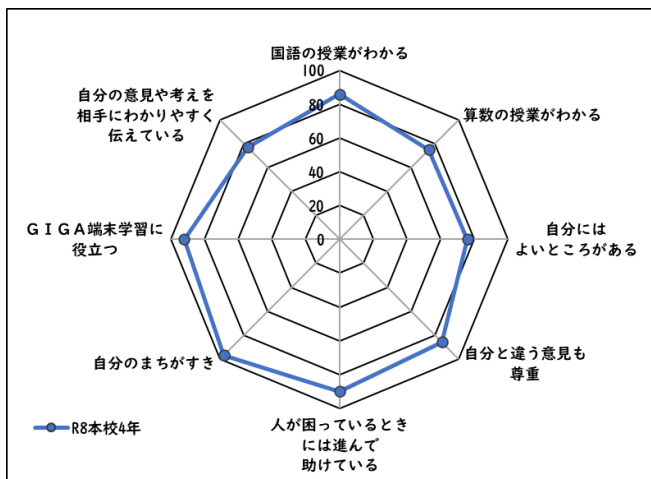
学校教育目標

「浅田のまちで、やさしく、かしこく、たくましく 生きる子どもの育成」
「やさしく」（豊かな心） 「かしこく」（確かな学力） 「たくましく」（健やかな体）

＜育てたい汎用的な資質・能力＞

- 学んだことを人生や社会に生かそうとする（学びに向かう・人間性など）
- 実際の社会や生活で生きて働く（知識や技能）
- 未知の状況にも対応できる（思考力・判断力・表現力）

令和8年度 川崎市学習状況調査 4年生



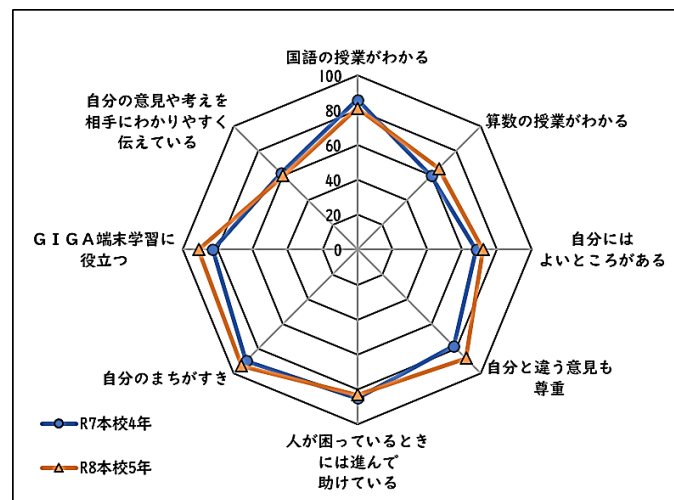
教科と観点	R8 4年	
	本校	全体
国語 知識・技能	74	87
算数 知識・技能	67	80

・「授業がわかる」という設問では、国語の理解度が算数を11ポイント上回る結果となりました。これは、言語活動に重点を置いた校内研究の成果が表れたものと受け止めております。一方で算数は、苦手意識を持ちやすい単元の復習や各自のペースに応じた学び直しを促し、次年度は5ポイントアップを目指します。

・「人が困っているときは、進んで助ける」では肯定的回答が9割を超えました。異学年が関わるスマイルタイムの取組を継続してきたことから、高学年の低学年への優しくかわる姿が定着してきました。思いやりの心が学校全体に広がっています。

・「自分にはよいところがある」は76ポイントとやや低い結果となりました。学校や生活での努力や成果を具体的に認め価値づけしたり、係活動やクラブ活動などの目標達成を共に喜び合う場を設けたりしていきます。互いのよさを伝え合い、自分の価値に気づき自己肯定感を高められるようにします。

令和8年度 川崎市学習状況調査 5年生



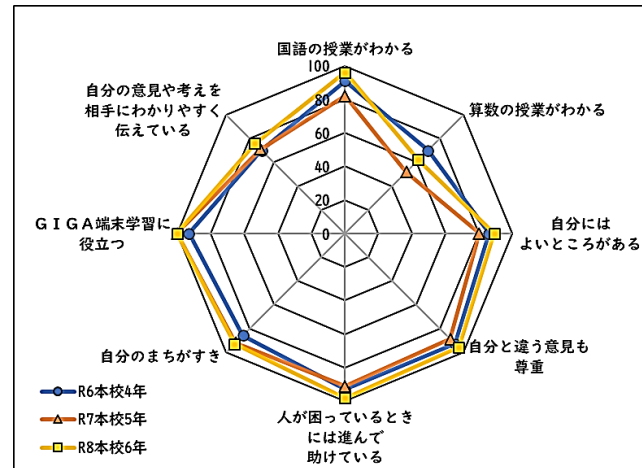
教科と観点	R7 4年		R8 5年	
	本校	全体	本校	全体
国語 知識・技能	64	83	60	74
算数 知識・技能	66	80	51	71

・「授業がわかる」という設問では、前年度とほぼ同水準の結果でした。学年が進むにつれて学習内容が高度化することに加え、これまでの学習内容の未定着も影響していると考えられます。そのため、これまでに学んだ内容がどのような場面で使えるかに気付かせるような授業展開を工夫し、理解の定着を図ってまいります。

・「自分と違う意見も尊重している」と答えた児童の割合が、4年生時点より10ポイント上回りました。4年生時よりGIGA端末を活用した協働的な学びに取り組んだ成果ととらえています。その中で他者の考えを受け入れ、互いの思いや意見を尊重し合える姿勢が育ってきました。

・「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える」点においては、課題が見えます。互いの意見を認め合う雰囲気を大切にしながら、自分の考えを整理し相手に届ける「伝える力」を育む学習指導の充実に力を注いでまいります。

令和8年度 川崎市学習状況調査 6年生



教科と観点	R6 4年		R7 5年		R8 6年	
	本校	全体	本校	全体	本校	全体
国語 知識・技能	66	78	59	68	56	65
算数 知識・技能	66	74	60	76	63	71

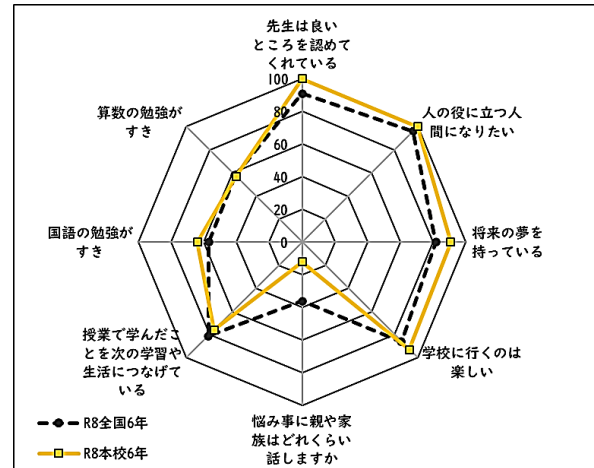
＜川崎市学習状況調査より＞

・日頃から児童一人一人のよさや努力を認め褒める指導を重ねてきたことにより、「自分にはよいところがある」という設問の肯定率が過去3年間で10ポイント伸びました。日常的な承認の積み重ねが、自尊感情の高まりにつながっています。

・「授業がわかる」の設問において、国語は9割超えと高い肯定率であったのに対し、算数は6割にとどまりました。学んだことが定着しきれていないことが、現在の学習のつまずきにつながっていると考えられます。今後は、すでに学習した内容を丁寧に振り返り、生かせる場面を確認する算数の授業づくりに力を入れ一人一人が「わかる・できる」実感をもてるよう指導を工夫してまいります。

・「自分のまちが好き」という設問では9割を超える肯定的回答でした。寺子屋やこども文化センター、町内会等を通じた地域との温かいふれあいの成果といえます。今後も学校・家庭・地域で連携し、子どもたちを地域全体で包み込む、心を通わせ合える学校づくりを進めてまいります。

全国学力・学習状況調査 6年生



＜全国学力・学習状況調査より＞

・「人の役に立つ人間になりたい」「先生は良いところを認めてくれている」という設問では、全員（100ポイント）が肯定的な回答を示しました。承認される体験の積み重ねが、児童の自己有用感の高まりへと結びついています。